

各種団体等と市議会との意見交換会開催結果（概要）

7月2日、枕崎商工会議所にて、各種団体等と市議会との意見交換会を枕崎建設業組合と行いました。

まず、枕崎建設業組合からテーマに沿ってあらかじめ出された質問事項の回答を行った後、その他の質問等がだされました。

意見交換会の主なやりとり等については次のとおりです。

なお、意見交換会の開催結果については、議長から市長へ送付しています。

テーマ 今後の公共事業の在り方について

【主な質問・意見】

※【】書きについては、議会で検討後、補足したものです。

問 二級河川花渡川・中洲川・馬追川・尻無川上流域の整備が必要ではないか。

答 行政に確認したところ、花渡川上流部の金山川の整備については、中洲川改修工事完了後に整備を計画している。現在、馬追川を県単事業で整備しているが、尻無川もあわせて要望はしているとのこと。また、今後も要望していくとのこと。

問 一部沿岸地域への越波対策の実施についてどのように考えているか。

答 行政に確認したところ、平成27年の台風15号で高潮被害を受けた旭町・新町地区の防災対策については、平成27年9月に南薩地域振興局に対して要望を、12月には鹿児島県に対して陳情を行った。

その後、南薩地域振興局では、台風15号で発生した波を計算で再現し、どのような波が護岸に対して影響したのかを推算する調査が行われ、平成29年2月に第1回住民説明会が行われた。

説明会では、5つの工法が説明され、住民からは景観も考慮していただきたいとの意見が出されたこと等を踏まえ、工法選定のための基本的な測量と海岸の断面検討などの調査が実施された。

これらの調査結果をもとに、平成30年2月に第2回住民説明会が行われ、基本的な測量の結果、沖の海底の状況が比較的浅かったことから、第1回住民説明会において説明のあった5つの工法の寸法変更と景観に配慮した2つの工法について説明があり、住民からは景観を考慮した2つの工法について理解が示され、事業化を検討していくことで了解を得た。

鹿児島県においては、現在この住民説明会を踏まえ、事業メニュー等を含め事業認定に向けた作業を進めており、平成31年度事業採択を目標に2つの工法における事業メニュー選定などを水産庁と協議する計画であると聞いている。

前ページの回答の続き

工法の決定や事業メニューの選定は、鹿児島県と水産庁の協議を行った上で、財務省との協議を経て決定することになり、決定された際には再び住民説明会を開催する予定であると聞いている。

問 側溝等への蓋版設置工事の全体計画についてどのように考えているか。

答 行政に確認したところ、側溝等への蓋版設置の計画については、現在も通学路及び危険箇所の安全対策として、年次的に整備するとのこと。

問 桜山小・中学校生の通学路となっている国道270号から道野町までの中間地点における急峻な法面の整備は予定していないのか。

答 現場を確認し、道野町の前公民館長と話をした。現在、五、六名の小・中学生が通学しているが、両親が学校付近までマイカー通学をしていると聞いている。

また、行政に確認したところ、地域や学校からの要望もないことから、法面の整備については難しいとのことであったが、先般の大阪北部地震での通学路にてブロック塀の倒壊で小学生が下敷きになり死亡事故が起きたことを踏まえて、法面部分の土地の買収や土地の所有権の登記変更ができるのかどうかを今後調査し、前向きに検討していきたいとのことである。

問 枕崎漁港整備について、地元業者が入札参加できるための国・県等への働きかけをしてほしい。

答 平成27年から29年までの3年間の枕崎漁港工事については、補助事業において、海上工事は市外の会社が受注しており、陸上工事は市内の会社がほとんど受注している状況である。なお、災害工事、県単工事については、全て市内の会社が受注している。

海上工事は、工事实績がないと受注できないため、市内の会社は、工事实績がないので受注できないのが現状である。JV等の方法で工事实績を積む必要がある。

県は、枕崎漁港整備工事等においては地域要件を重視し、地域に配慮したPR活動を実施しているとのことである。また、上記内容で国への要望活動を実施している。

しかし、入札は平等・公平に行う必要があることから、全て市内業者に発注することはできないのが実状である。

この様な中で最も大事なことは、漁港活性化のために補助事業を行政と民間の協力のもと誘致することであり、それにより建設業界も活性化する。

建設業界は、地元の利点を生かし、例えば工事のスピード、運賃コスト等の低減等、受注努力をすればよいと思っている。

前ページの回答の続き

当面は陸上工事を100%受注する目標で行うべきだと思っている。

問 一定規模以上（1,000万円以上）の工事発注をしてほしい。

答 行政に確認したところ、以前は多くの業者に受注の機会を設けられるように、分割発注を行っていたが、平成29年度に建設業組合から一定規模以上の工事発注要望があり、それ以降は、できる範囲において、1,000万円以上の発注に取り組んでいるとのことである。

また、平成29年度の1,000万円以上の土木工事件数については、6件となっているが、土木関係が10件で1億8,000万円、その他の工事（建築、電気等）が14件で3億2,000万円程度である。

南さつま市との事業件数の違いについては、そもそもの予算規模が違うことによるものである。また、5,000万円以上の工事件数についても、南さつま市においては総合運動公園の大規模改修があったことから、件数に違いが出ている。

平成29年度の途中から、できる範囲において、1,000万円以上の発注にしたため、南さつま市との工事件数を比較すると予算規模との割合になっていないが、平成30年度は当初からそのように工事を発注することから、工事件数の比較については、予算規模の割合以上の件数になるのではないかとのことである。

問 南薩縦貫道について、南九州市知覧町塗木から枕崎区間の道路新設を再度、国・県等へ働きかけをしてほしい。

答 行政に確認したところ、新ルート的位置や費用対効果の観点から考えていないとのことである。

地域の発展の基盤となる高速交通体系から距離を置く南薩地域において、念願であった南薩縦貫道が全線開通したが、現道活用による開通ということで、物流の効率化や時間短縮など課題が残っているとのことである。

さきで開催された南薩地区総合開発期成会総会においても、構成市の首長や県議会議員から、南薩縦貫道の整備効果が十分に発揮されるよう、全区間における制限速度60km以上の実現と、指宿スカイラインへ最短で結ぶアクセス道路の必要性等について意見が出され、更なる利便性向上に向けて、調査・検討を行うことを南薩地区としての要望事項に追加するとのことである。

問 南薩縦貫道の整備が完了してからそんなに経っていないのに、中原三文字から駒水へ行く道路が傷んでいる。

答 現在、県が調査を行っており、印がついている。今後改修する方向とのことである。

問 花渡川、中洲川堤防沿いの管理道路に植栽や休憩所、ランニングコース等の地域コミュニケーション施設を設置してほしい。

答 管理道路は、県所有部分を市が委託を受けて管理しているが、舗装部分は市が行ったとのことである。遊歩道化については、構想はないとのことである。

管理道路、法部分には植栽、工作物の設置はできない。また、民有地を取得して施設を整備するには難がある。つくっても管理費がかかる。奇特的な組織が必要である。

歩道化は、防犯面から舗装化、ガードレール、防犯灯（公民館負担）が必要になる。

ランニングコースは一部あるが、管理が重要である。

新たな施設を設置するよりも既に歩道が整備された場所の活用が望まれる。

問 道の駅の建設について、農産物販を兼ねた休憩所等の施設建設をしてほしい。

答 道の駅については、指摘のとおり地場産業振興センター、お魚センター、かつお公社があり、現在の需要にこたえており、新たな施設の設置は考えていない。

新施設の構想は、JA、貴組合、商工会議所等、組織づくりから運営方法など多岐にわたると考える。

人口減少の中、存続可能なのか、今ある施設の再利用か、いずれにしても産業界等での検討が必要である。

問 空き家対策について、助成金を使った解体、リフォーム、民泊施設の利用をしてほしい。また、危険家屋のみに適用している解体助成金の適用拡大及び予算拡大をしてほしい。

答 解体補助制度は全国的にある。ほとんどの市が国の示す基準と同程度である。個人財産は個人が管理するのが原則である。

枕崎市は、Aランクに認定した危険空家について解体費用を補助している。実績は5件である。

Aランク以外の空き家解体、リフォーム、民泊施設への改造は補助対象外としている。

危険空家の危害から住民の生命、身体、財産等を守り、補助による解体撤去を促す。

リフォームや民泊施設への補助は個人の利益につながるため、公費の補助はなじまない。

公益的な活用（寄附・公園）に対する解体やリフォームへの補助事例はあるが、費用対効果の財政的問題がある。

行政に確認したところ、住宅リフォームの補助は、平成24年度、平成25年度に実施したが、現在は、支援策はない。ただ、空き家対策、また移住・定住の対策として、地方創生総合戦略の政策パッケージ、「枕崎へ新しい人の流れをつくる」において、

前ページの回答の続き

移住者向け住宅リフォームへの助成を掲げ、それとさきに策定した空家等対策計画においても、空き家等の活用の促進策として、空き家バンクの実施とともに、移住・定住等を目的とした空き家の取得、リフォームに対する助成を検討することとしており、現在、事業の早期実施に向けて検討を進めているとのことである。

民泊の施設の利用については、その趣旨が定かではないが、民間が空き家を活用した取り組みを行う場合には、個別の案件ごとに社会資本整備総合交付金等の対象にならないか検討するなど支援をしていきたいと考えているが、空き家バンクの充実など、空き家活用の前提となる利用可能な空き家の情報発信に、まずは力を入れていくとのことである。

また、適用拡大については、現在、市内業者を利用して危険空き家の解体を行う方に対して、危険空家等解体撤去事業補助金を交付しているが、この補助金については、市民の日常生活における安全・安心を確保することを目的とした補助制度で、危険空家に該当しない家屋の解体に対する補助など、適用の拡大については現在のところ検討は行ってない。また、予算拡大については、危険空家に該当して解体を行う方に対する補助の予算を今後ともお願いしていきたいと考えているとのことである。

問 各種スポーツ大会や大学のキャンプ・合宿等の利用促進のため、市営グラウンドの大規模改修をしてほしい。

答 行政に確認したところ、公園施設長寿命化対策支援事業の長期計画で計画しているが、老朽化が激しい施設の改修や危険な遊具の更新等を急いでいるとのことである。

市営グラウンドは、水はけが悪いという苦情もきており暗渠排水の改修工事、それから、土の入れかえ、芝の張りかえ等の改修も計画しているが、大規模改修時期については未定となっているとのことである。

問 市営球場に、けが防止のためのフェンスラバーを整備する計画はないのか。

答 数千万円程度の多額の出費を必要とする。今のところ計画はない。

問 市営グラウンド周りの駐車場が少ないが、どうにかならないか。

答 勤労青少年ホームを解体し、その跡地を当面の間、駐車スペースとして使えるようになっている。

問 南薩横断道路へのアクセス道路の建設をしてほしい。

答 行政に確認したところ、南薩横断道路へのアクセス道路の建設については、現在、

前ページの回答の続き

薩摩半島横断道路建設促進協議会において、その実現に向けて取り組んでいるとのことである。

計画中の経路としては、南さつま市役所前交差点から南薩縦貫道の神殿 I C へ、そこから南薩縦貫道を南下して、瀬世交差点から指宿スカイラインの顛娃 I C へ、そこからさらに指宿スカイラインを南下して、(仮称)池田交差点から指宿市街地へとなっており、南薩横断道路へのアクセス道路の建設については、質問の趣旨が何を指しているのかよくわからないが、枕崎市から薩摩半島横断道路へのアクセスとしては、現状、南薩縦貫道、または国道 225 号線を利用することになると考えているとのことである。

また、この南薩縦貫道の機能強化については、南薩地区総合開発期成会総会において、構成市の首長や県議会議員から、南薩縦貫道の整備効果が十分発揮されるように、全区間における制限速度 60 キロメートル以上の実現、指宿スカイラインへ最短で結ぶアクセス道路の必要性等について意見が出され、さらなる利便性向上に向けて調査・検討を行うということ南薩地区として要望事項に追加することとしており、さらに、地元選出の県議会議員全員と本市を除く 3 市の市長、議長が顧問となっている薩摩半島横断道路建設促進協議会から、市長への顧問就任の要請があり、これを承諾し、さきに行われた薩摩半島横断道路建設促進決起集会へも、市長が公務出張のため、副市長が代理出席して意見を述べたとのことである。

地域内を結ぶ道路網の整備については、広域的な取り組みが求められることから、南薩 4 市で構成する南薩地区総合開発期成会においても、平成 27 年度から要望事項として取り上げ、地域の課題として県へ要望を行っているとのことである。

問 市内に点在している耕作地の集約、遊休地の集約をしてほしい。

答 担い手農家に農地の利用集積を促進していくが、所有者不明農地の問題もあり、個別、具体的な対応とならざるを得ない。

問 農振地域にも遊休農地が点在している状況であり、企業誘致や施設建設の妨げとなっている。地域活性化のために農振地域の整備をしてほしい。

答 問題発生している具体例があれば教えていただきたい。

【具体的事例が示されれば、議会として調査し、対応したい。】

○その他

問 森林環境税に対し、どう取り組むのか。

答 平成 30 年度の税制改正大綱で決定済みであることから、早く取り組んだほうが有利になる。

【平成 31 年度から事業実施ができる見通しである。】

問 下水道事業の今後の拡大はないのか。

答 今後の事業は未定である。

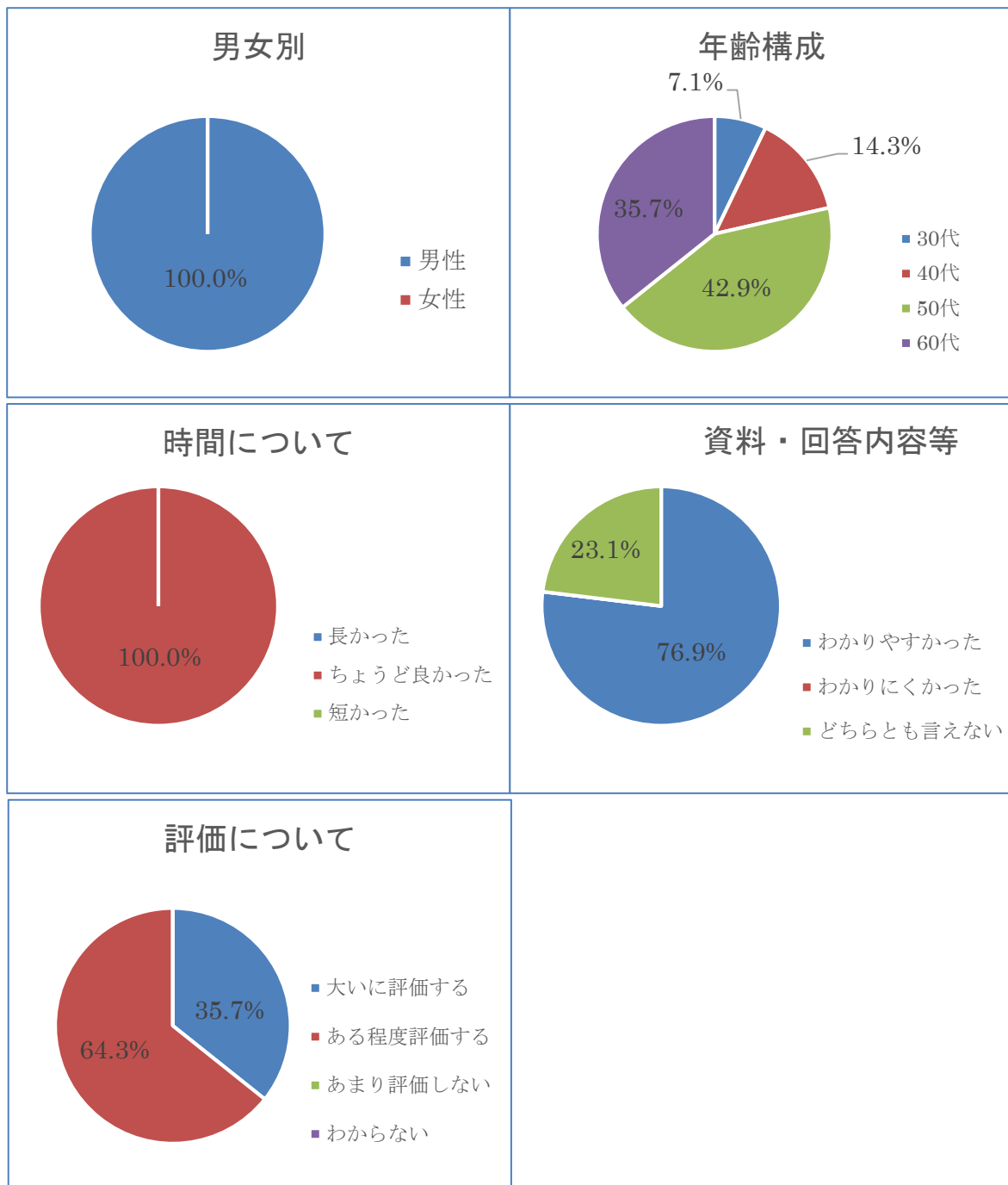
また、長寿命化計画の中で施設・設備等の更新事業があるのではないかとと思われる。

○意見・要望等

◇ 現在、蓋板設置工事に携わっているが、元々の側溝が古いため工事が大変である。全部新しいトラフに入れかえたほうがよいのではないか。

◇ 薩摩半島横断道路建設促進に係ることについて、市議会でも取り組んでほしい。

[アンケート調査の結果]



○今回の意見交換会について、何か気づいた点等

- また次回
- 議員の皆様方の考えているビジョンが伺えて、本日は大変よかったです。
- わかりやすい交換会になりました。

○今後の意見交換会（テーマ含む）の内容、運営などについて

- ・ 15時くらいから始めて、懇親会があってもいいかなと感じました。